

ドロップ平成27年度事業報告

1. 方針

利用者の個別のニーズに応え、地域での生活がより豊かなものになる様、支援を行う。

2. 目標と支援内容

① GHの利用者の余暇支援を充実させる。

ア 利用者の希望を基に、担当職員と相談をしながら、移動支援を実施する。
新たに19名のGH利用者と契約し、担当職員と相談しながら支援を行った。

イ ドロップ企画の余暇外出を実施し、余暇の幅を広げ、また、利用者同士の交流を図る。

4月 ビール工場でバーベQ

工場見学時、車椅子の利用者には1対1で介助者がつかないとならぬとの事だった為、体制上軽度の利用者対象で実施した。

5月 GW宿泊旅行(水上温泉、1泊2日)

大型バスに加え、職員が運転のリフト車を1台出した。高速道路の渋滞がひどく、予定されていた観光が出来なかった。来年度に向けて行先などの検討が必要と思われる。また、利用者33名に対して職員が9名同行し、利用者の重度化も変わらずの課題であった。

6月 ホテルランチ&温泉

成田のホテルを利用。観光なしのゆったりプランだったので、高齢と重度の利用者に適したプランであった。

7月 バスハイク

筑波山へ。車椅子の利用者が多かった為、リフト車を用意した。天候が雨だったので、現地での移動に不便を感じた。

8月 甲子園&USJ旅行(2泊3日)

金曜日の夕方発の行程で実施した。2日目にゆっくりする事は出来たが、コースを分けたこと及び重度の方が多かった事で、引率職員6名では手薄であった。(利用者は33名)

9月 日帰り温泉ツアー

鬼怒川温泉のホテルでの観光なしプラン。車椅子の方も多かったが、ゆっくり過ごす事が出来た。

9月 被災地復興ツアー

宮城などを新幹線と観光バスを使って廻った。シルバーウィーク対策で実施。費用が高かったせいか参加人数が10名と少なかった。実際に被災地を訪れたことで利用者がそれぞれ何かを感じた旅であった。

11月 バスハイク

ぶどう狩りを実施。車椅子対応の農園を利用した。

11月 海外旅行（香港2泊3日）

今回初めて車椅子の利用者が参加した。今回からパスポートの申請もドロップで行った。

12月 都内ホテルでランチ

電車で移動したため、低予算の企画となり、普段参加できない利用者も参加できた。

12～1月 正月旅行（2泊3日）

今回初の試みで、1泊コースと2泊コースで分け、リフト付きのバスと職員運転の車両（4台）を出した。1泊コースには重度の利用者や金銭的に厳しい利用者が多く参加し、コースを分けた意味はあったと思われるが、運転担当の職員の負担が大きく今後については課題が残った。

3月 バスハイク

千葉の三日月ホテルにて温泉とランチのプランで実施した。

ウ 手芸クラブ（月2回）、個人の手芸教室を開催する。

手芸クラブを月2回開催する。

メンバーが15名になった為、3グループに分け、月に3回のクラブ活動を行った。活動では、利用者の希望を聞きながら以下の作品作りを行った。

年間を通じて季節を感じられる作品作りが出来たと思う。

4月:ポケットティッシュケース（裁縫）

5月:外出（さくらほりきり、春の手作り作品展を見学）

6月:海の仲間の壁飾り（パウダーアート）

7月:貝殻の根付け・ティッシュボックス（貝殻細工・ニュークラフト）

8月:エコハットのブローチ・花籠（エコクラフト）

9月:ふくろうのマスコット・ハロウインのフォトフレーム（裁縫・シー遊び）

10月:外出（さくらほりきり、秋の手作り作品展を見学）

11月:クリスマスリース（フラワーアート）

12月:お正月のリース（押し絵）

- 1月:行燈(貼り絵)
- 2月:お雛様の壁飾り(パウダーアート)
- 3月:アルバム(裁縫)

年に3回、作品展に出品する。(春、秋のさくらほりきり手作品展と、12月の葛飾区障害者作品展)

5月、10月はさくらほりきりの手作り作品展、12月には葛飾区障害者作品展に作品を出品した。

また、個人の手芸教室も引き続き行い、その人に合った「もの作りの楽しさ」が味わえるようなプログラムも提供する。

7名の利用者に、それぞれ月に1~2回の個人手芸教室を行い、帰寮後や休日に楽しめるプログラムを提供する事が出来た。

公文教室へ参加する。~脳の活性化を図る教材を提供する。

1名の利用者を公文教室に参加させ、教室の先生と連携し、楽しく学習が出来る教材の提供を行った。また、2名の利用者に月に2回、30分の学習会を開催し、数や文字の学習を行った。

- ② 在宅の利用者及び高齢利用者のニーズに合わせた支援を拡充する。
余暇支援のみならず、通学通所通院同行、家事援助、放課後の見守り入浴などの支援を行った。高齢の利用者に対しては、その時必要な支援を柔軟に提供するよう心掛けた。
- ③ ヘルパーの質の向上
 - ア 必要な研修に参加し、援助技術を向上させる。今年度は特に、全身性障害者移動支援従業者研修をドロップの職員は全員受講する。
2名の職員が全身性障害者移動支援従事者研修を受講した。
 - イ 支援報告書などから課題を見つけ、解決方法を探り、次の支援に確実に活かしてゆく意識を持ち、実践してゆく。
計画通り実施した。
 - ウ ファイルマネージャーを活用し、支援報告書を誰でも閲覧し易くする事で、GH職員と情報を共有し支援に活かせるようにする。
計画通り実施した。
 - エ 支援力向上を主な目的としたGHスタッフのヘルパー兼務を引き続き行

う。

計画通り実施した。

オ ガイドヘルプのマニュアルを作成する。

今年度は出来なかったので、来年度に持ち越しの課題としている。

カ 引継ぎミスを防ぐ為、引継ぎは基本、書面がメールで行う様にする。

計画通り行った。

④ 会議の開催

ドロップ会議を月1回開催する。また、その他に、ヘルパーミーティングも適宜行う。

支援の関係で実施出来ない月もあったが、その際は書面にて全職員が情報を共有出来る様にした。ヘルパーミーティングは日々の情報交換で事が足りたため実施しなかった。